おかめ新聞

戸田屋正道

早春号

おかめマーク®は、創業者のおばあちゃんの似顔絵です。戸田屋正道のイメージにピッタリなので、イメージキャラクターに採用しました。今ではすっかり戸田屋正道のブランドイメージになっています。

おかめファンクラブ Special!

戸田屋のお客様におはなしをうかがいました。

ファンクラブナンバー 040

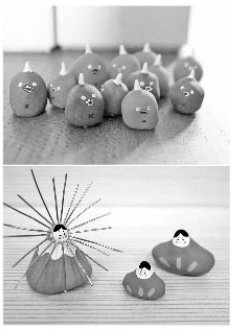
創作張子作家
アート大福
夢野 だいふくさん

山形県にてひっそりと張子（はりこ）作品をつくっています。現在はお取引様の店舗と企画展の参加のみ。個人様のオーダーはおやすみ中です。栃木出身。

山形県が好きすぎて、もっと知ってもらいたくて、独特な張子をつくっています。

さくらんぼやラ・フランスに顔があったり、お雛様がりんごの上にのっていたり。あまはげ、豆つぶ程の鬼、ニュージーランドの鳥キーウィ、人魚、ユニコーン……。今回はやんちゃで個性的で、つい笑ってしまう、かわいい張子の作家さんです。こけしや工芸作品のファンであった夢野さんは結婚を機に山形へ。こけし工人梅木直美さんにアクセサリーの絵付けを依頼し、自身で販売用ケースの張子を制作。それがショップオーナーの目にとまり、オリジナル作品をつくるようになりました。

張り子に使う月山和紙をオーダーし、山形の自然や伝統行事をモチーフにした作品を発表しています。



「私の張子は伝統工芸とは違います。自分が思ったことを形にするスタイル。自由だから果物や習俗などの作品を作れます。もっともっと山形を知って欲しい」と話してくれました。

戸田屋のお菓子で好きなのは山形あんころ、水ようかん。「丁寧につくられているのがわかり、とてもおいしい。それとキャラクターのおかめちゃんが絶妙にかわいい。心も射抜かれてしまい、好きすぎて作品にしてしまいました。店内にも飾っていただいているのでご覧になっていただけるとうれしいです」。

教えて工場長！ 戸田屋の日のひみつ

●昨年から毎月18日が「戸田屋の日」になったのはどうしてですか？

社内会議の中で、毎月一回、お客様に日頃のご愛顧に感謝を表す日が欲しいという話が出て、何か特別なお菓子を作ったり、ポイントを2倍にして感謝しようという事で決まったんですよ。

●なんで18日？

語呂合わせで18＝「トダヤ」に合わせたというのもありますが、実はそれは後付けで、本当は毎月18日は、初代の戸田正吉さんの月命日なんです。だったらその日に合わせて、戸田屋を創業した初代にも感謝する日にしようって決まったんです。

●社員の皆さんでご先祖様に感謝するんですね！

先人の恩恵に感謝するという、戸田屋らしいやり方ですね（笑）

●毎月新しいお菓子を考えるのは大変じゃないですか？

主に社長と二人でネタを出し合って考えますが、楽しみながら考えてますよ。人気があったものは、何度か出したりして。中でも第一回からとてもご好評をいただいた「極柔プリン」は、戸田屋の日の定番になりつつあります。

●それは美味しそうです。

是非とも戸田屋の日に食べてみてくださね（笑）

●毎月18日の「戸田屋の日」は要チェックですね。ありがとうございました！

工場長の片山さん

隠居日和

隠居 戸田正宏

その昔、私が幼少のころ我が町内は裏通りであるにもかかわらず○○屋という小商いの店が実に多かった。八百屋さん、床屋さん、自転車屋さん、下駄屋さん、一銭店屋さん、お風呂屋さん、酒屋さん、肉屋さん、魚屋さん、パーマ屋さん……もちろん駄菓子屋も。少し離れた、と言っても歩いてすぐであるが、映画館もあったのだから驚きです。

そこには日常生活に全く困らない一つの「町」が機能していたのです。その店を中心に町内会が発展し、地域住民皆さんが一つの家族のように助け合い、励まし合いながら生活をしていました。我が町の「文化」がそこにあったのです。

それが時代とともに新業態のスーパーマーケットができ、一軒、また一軒と姿を消していきました。

スーパーの出現は私たちに利便性を与えましたが、スーパー間の競争が激化する従い大型化して郊外に店舗を移し、小さい町中のスーパーマーケットも姿を消すようになりました。その都度、町中で買い物をする場所がどんどん減り、今では却って生活の不便さを味わうことになりました。

その中でも別格だったのが大沼デパートです。大沼で買い物をしたり、屋上の遊園地で遊んだりすることは、当時は相当ハイレベルな「非日常」のことでした。今でいうディズニーランドに行くみたいな心地です。

特別な贈り物には必ず、大沼のバラの模様の包装紙に包んだ物でしたし、誕生日や受験合格と言ったハレの日には食堂での会食も本当に晴れがましく、楽しい思い出です。

時代の波、と言ってしまえばそうなのでしょう。経営努力も相当していたのだと思います。でも、大沼デパートは間違いなく山形の一時代を築いた「文化」でした。

おい！大沼さん、おたくは山形の文化なんだぞ！勝手に潰れてもらっては困る！

ニューフェイス

北海道から引っ越してきたのがきっかけで、戸田屋で働くご縁をいただきました。

人と接するのが好き。そして、美味しいものを食べるのが好きという理由で働こうと決意。今は製造のお手伝いをしながら、お客様とも接する機会を大切に取り組んでいます。

皆様とお会いできる日を楽しみにしています。ぜひ、お越しください。

山中 美咲さん